

日刊建設工業新聞（2026年2月18日付 3面掲載）

【オリコンサルグローバルが施工監理担う 比マニラ首都圏地下鉄CP105工区が起工】

比マニラ首都圏地下鉄
CP105工区が起工

オリコンサルグローバルが施工監理担う

オリエンタルコンサルタント

ンツグローバルが施工監理を担当する「フィリピン国
マニラ首都圏地下鉄CP105工区」が起工した。13日に現地で起工式が開かれ、フィリピンからフェルディナンド・マルコス大統領やジョバンニ・ロペス運輸大臣、馬場隆国際協力機構本の政府開発援助(ODA)



起工式には両国の要人・代表が多数出席した（報道発表資料から）

資金や無償資金協力で整備を実施。延長34キロ、2032年の開業を目指し現在工事が進んでいる。今回起工したCP105工区は、カラヤアンアベニュー駅～ボニファシオ・グローバル・シティ駅を結ぶ1・3キロ間。

マニラ首都圏は人口1300万人を擁し、経済の急速な発展と一極集中により、交通混雑が悪化の一途をたどっている。フィリピ

(JICA) フィリピン事務所長らが出席した。
マニラ首都圏地下鉄は日本から遠藤和也駐フィリピン特命全權大使、馬場隆国際協力機構本の政府開発援助(ODA)